

5-1 進路指導

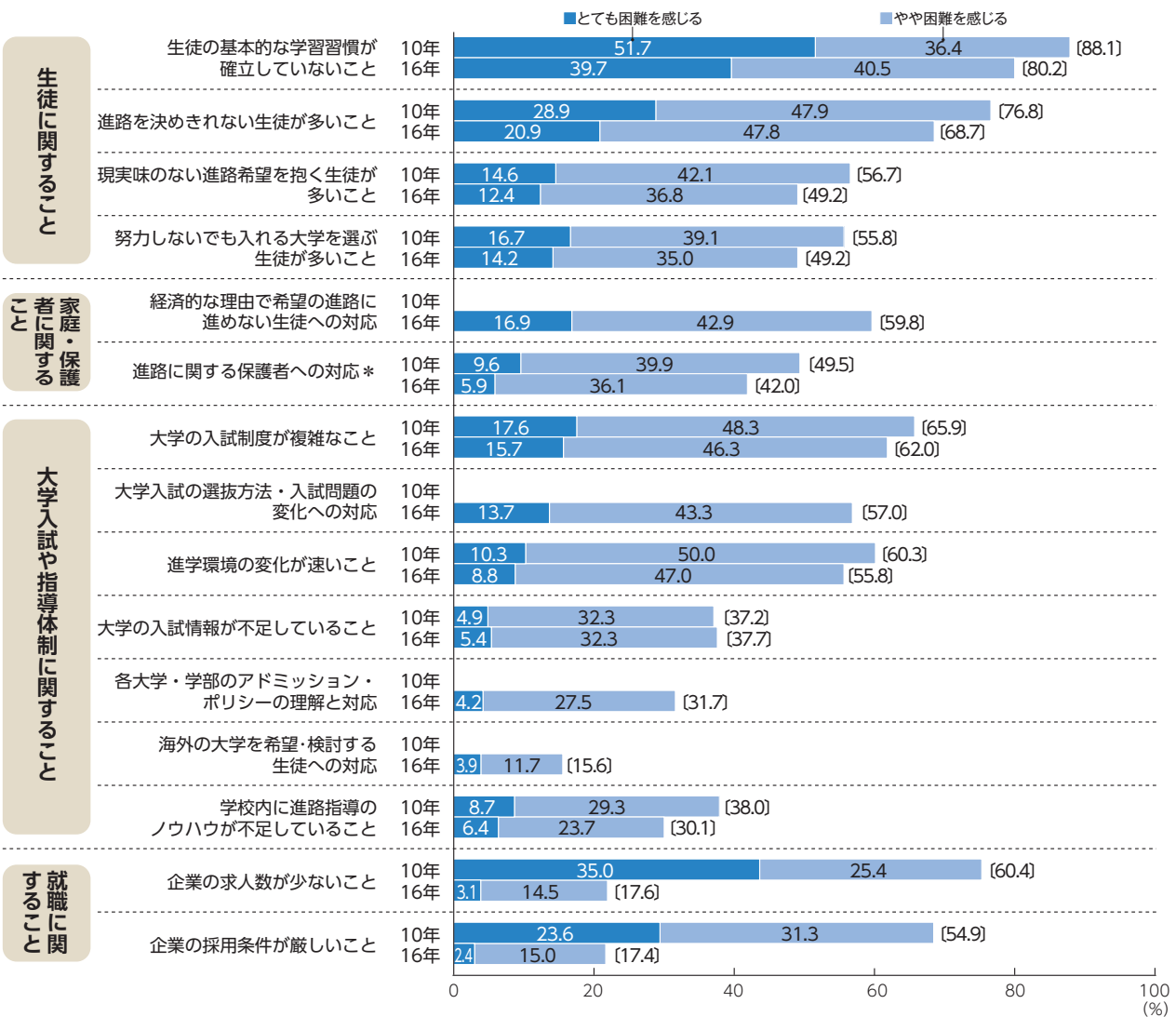
悩みのトップは「学習習慣の未確立」で8割。

進路指導の悩みとして、もっとも高いのは「生徒の基本的な学習習慣が確立していないこと」で80.2%であった。経年でみると、就職環境の変化を反映して、企業の求人数や採用条件といった就職に関する項目について困難を感じる割合が10年比で大きく減少している。

Q

生徒の進路指導を行う上で、次のようなことに対してどれくらい困難を感じますか。

図5-1 進路指導の悩み(経年比較〔公立全体〕) **高校** **教員**



注1) ()内は「とても困難を感じる」+「やや困難を感じる」の%。

注2) 選択肢は「とても困難を感じる」「やや困難を感じる」「あまり困難を感じない」「まったく困難を感じない」「該当しない・わからない」の5択。

注3) *は10年では「進路に関する保護者への対応が必要なこと」としてたずねている。

学力上位層の学校では、10年比で学習習慣に関する悩みが改善傾向。

悩みを入学時学力水準別にみると、Aグループでは、「大学の入試制度が複雑なこと」「進学環境の変化が速いこと」など大学入試に関することが高いが、C・Dグループでは、「生徒の基本的な学習習慣が確立していないこと」「進路を決めきれない生徒が多いこと」など生徒に起因する悩みが高くなっている(表5-1)。

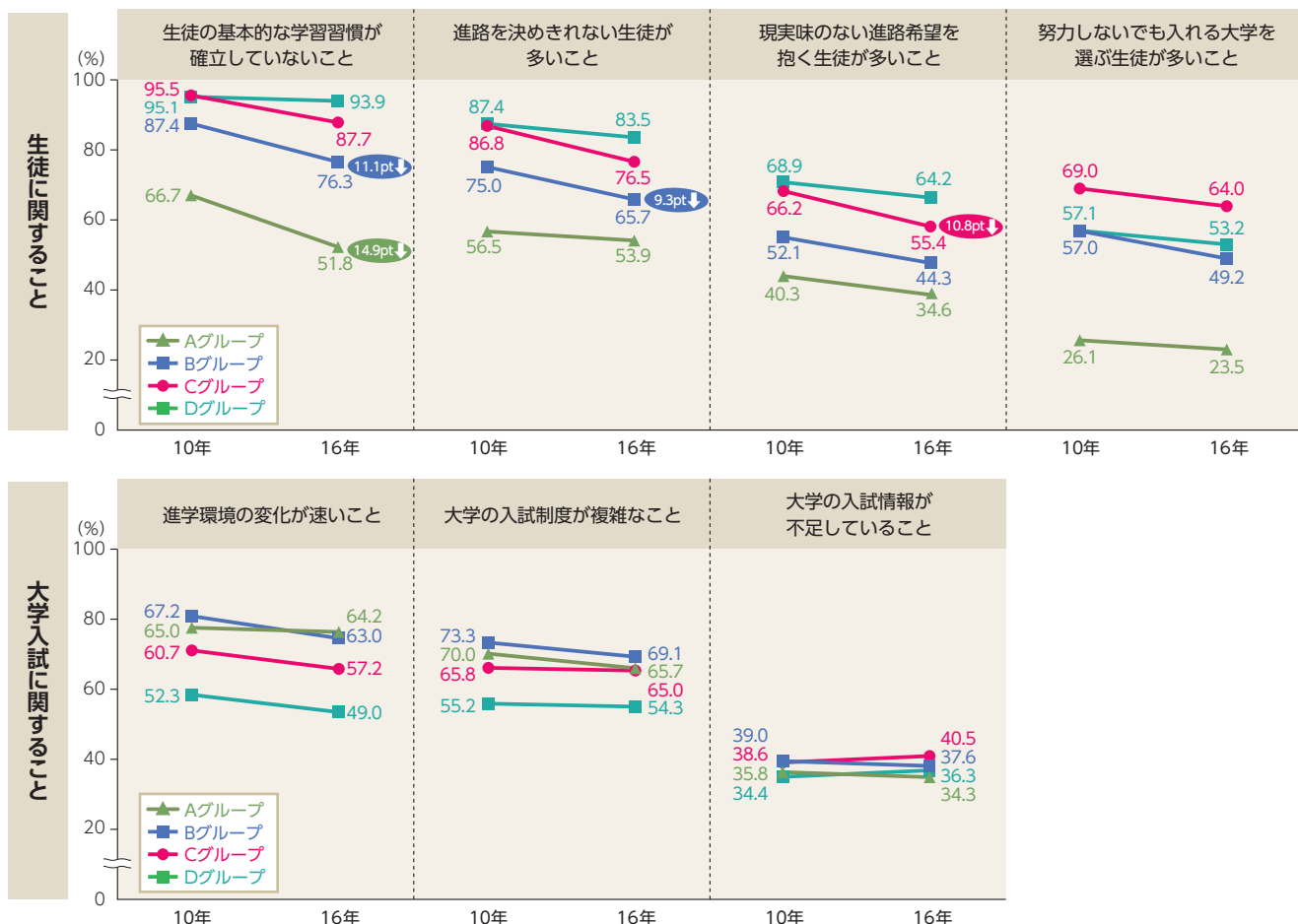
さらに、入学時学力水準別に経年変化をみると、「生徒の基本的な学習習慣が確立していないこと」はA・Bグループで10ポイント以上改善し、「進路を決めきれない生徒が多いこと」はBグループで9.3ポイント、「現実味のない進路希望を抱く生徒が多いこと」はCグループで10.8ポイント改善している。一方、大学入試制度など環境面に関することは、グループ別に変化の違いはあまりみられていない(図5-2)。

表5-1 進路指導の悩み(入学時学力水準別〔公立普通科〕・上位3項目) **高校** **教員**
 「とても困難を感じる」+「やや困難を感じる」の%

	Aグループ(382)		Bグループ(2,048)		Cグループ(971)		Dグループ(739)	
1	大学の入試制度が複雑なこと	65.7	生徒の基本的な学習習慣が確立していないこと	76.3	生徒の基本的な学習習慣が確立していないこと	87.7	生徒の基本的な学習習慣が確立していないこと	93.9
2	進学環境の変化が速いこと	64.2	大学の入試制度が複雑なこと	69.1	進路を決めきれない生徒が多いこと	76.5	進路を決めきれない生徒が多いこと	83.5
3	大学入試の選抜方法・入試問題の変化への対応	61.0	進路を決めきれない生徒が多いこと	65.7	経済的な理由で希望の進路に進めない生徒への対応	68.6	経済的な理由で希望の進路に進めない生徒への対応	78.1

注)入学時学力水準は、「貴校に入学した平均的な生徒の中学校時代の成績(評定平均)」に対する校長回答による。評定平均はAグループ4.5~5.0点、Bグループ3.5~4.0点、Cグループ3.0点、Dグループ1.0~2.5点として公立普通科について分類した。

図5-2 進路指導の悩み(経年比較(入学時学力水準別〔公立普通科〕)・7項目) **高校** **教員**
 「とても困難を感じる」+「やや困難を感じる」の%



注1)入学時学力水準は、「貴校に入学した平均的な生徒の中学校時代の成績(評定平均)」に対する校長回答による。評定平均はAグループ4.5~5.0点、Bグループ3.5~4.0点、Cグループ3.0点、Dグループ1.0~2.5点として公立普通科について分類した。

注2) 00.0pt ↑ / 00.0pt ↓ は10年調査比で10ポイント以上の増減のあることを表す。

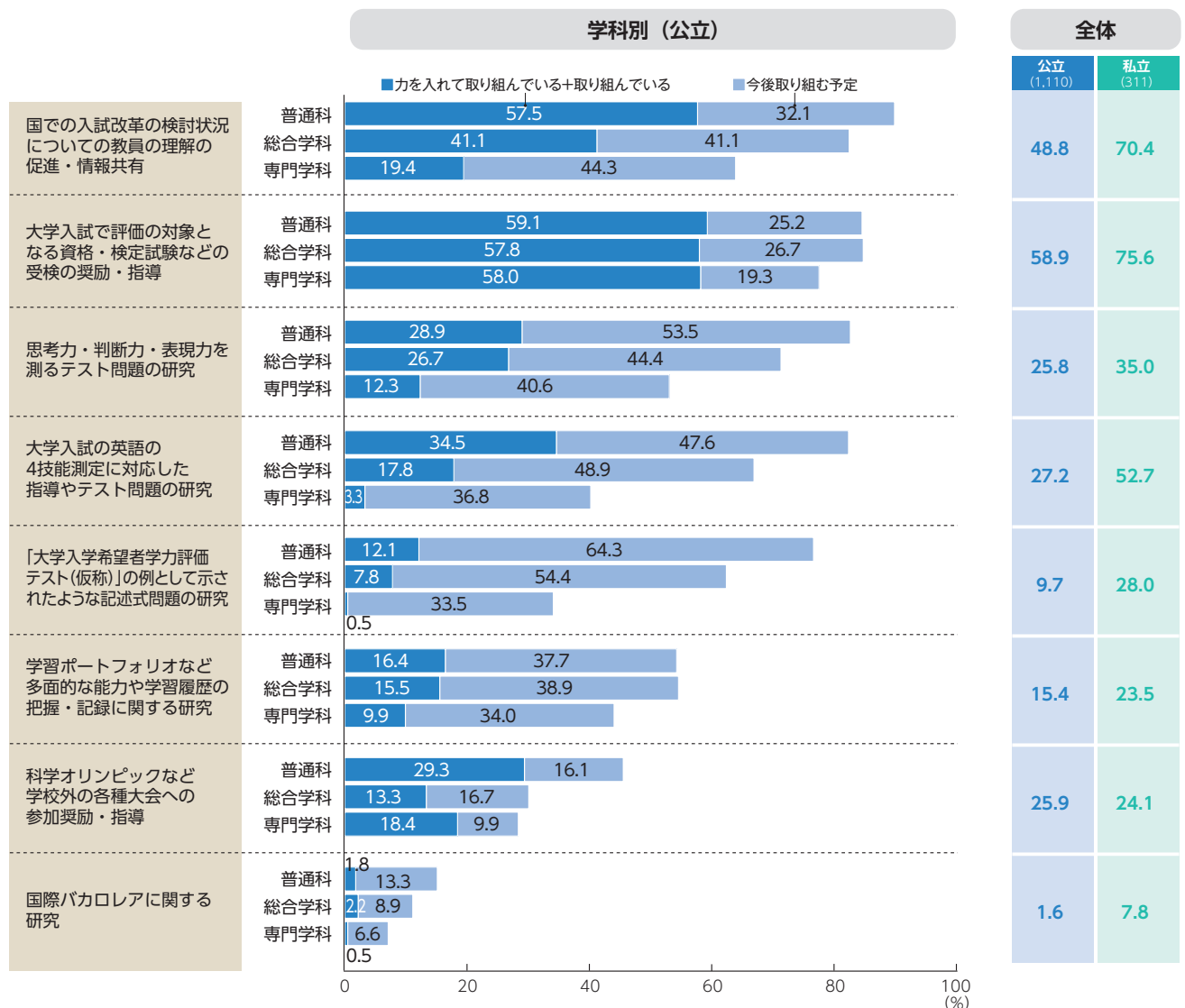
5-2 大学入試改革

公立普通科の3分の1、私立の半数が、大学入試の英語の4技能測定への対応を始めている。

大学入試改革への対応状況について、公立普通科の6割弱が「国での入試改革の検討状況についての教員の理解の促進・情報共有」に取り組んでおり、34.5%が「大学入試の英語の4技能測定に対応した指導やテスト問題の研究」に、28.9%が「思考力・判断力・表現力を測るテスト問題の研究」に既に取り組んでいると回答している。また、「『大学入学希望者学力評価テスト(仮称)』の例として示されたような記述式問題の研究」に取り組んでいるのは1割強であるが、「今後取り組む予定」は64.3%と高く、方向性が具体的にわかり次第動き始めそうだ。一方、私立は公立よりもすでに全般に取り組んでいる割合が高くなっている。

Q 貴校では、大学入試改革に関連した次のようなことを行っていますか。

図5-3 大学入試改革への対応状況(学科別〔公立〕、公立・私立全体) **高校** **校長**



注1) サンプル数は、普通科775名、総合学科90名、専門学科212名。

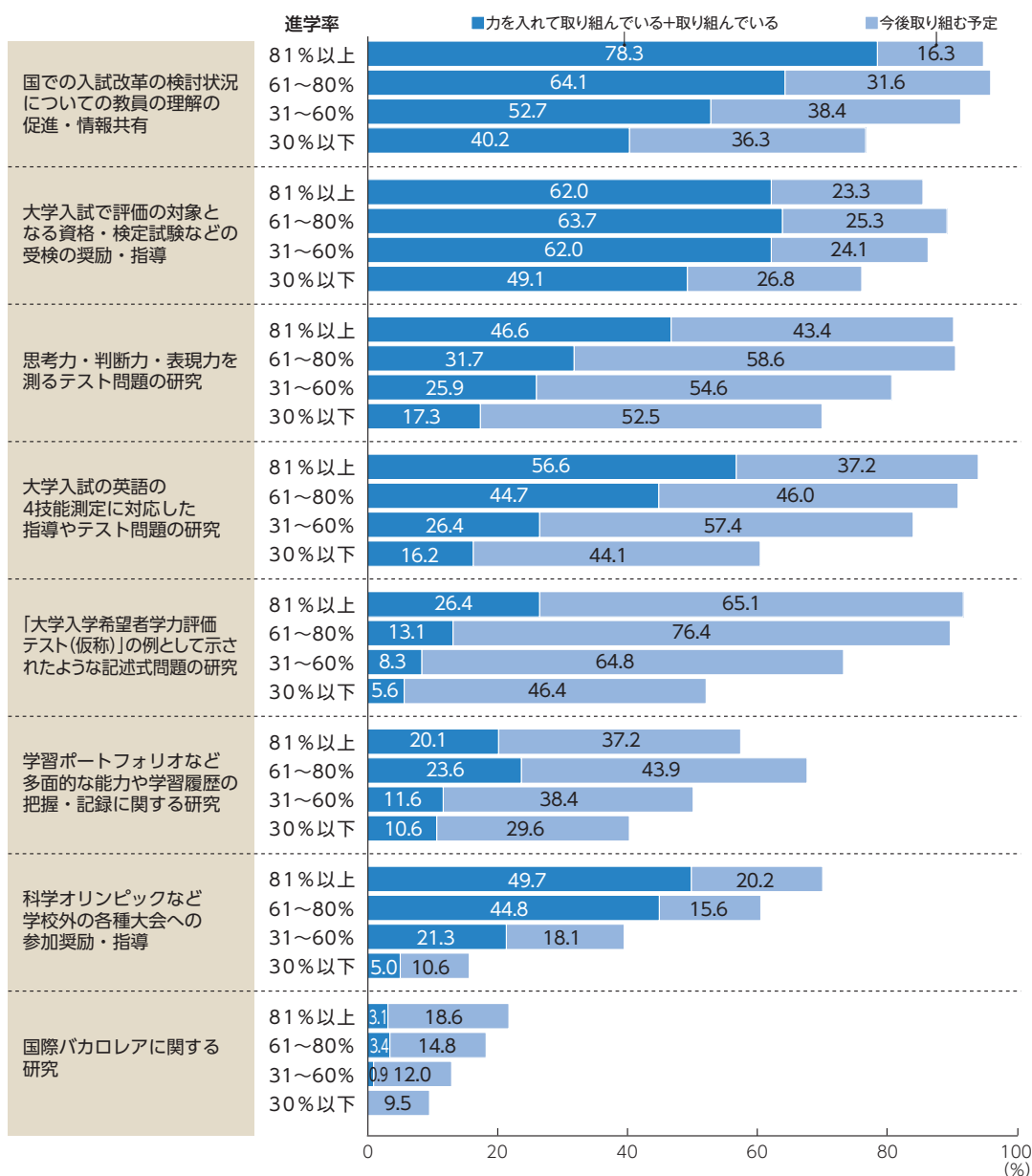
注2) 選択肢は、「力を入れて取り組んでいる」「取り組んでいる」「今後取り組む予定」「取り組んでおらず、予定もない・決まってない」の4択。

注) 表は「力を入れて取り組んでいる+取り組んでいる」「今後取り組む予定」の割合を示している。

四年制大学進学率が8割を超える学校の約半数が「思考力・判断力・表現力を測るテスト問題の研究」に取り組んでいると回答。

公立普通科について各高校の四年制大学進学率別にみると、進学率が高いほど入試改革への対応に取り組んでおり、「国での入試改革の検討状況についての教員の理解の促進・情報共有」や「思考力・判断力・表現力を測るテスト問題の研究」「大学入試の英語の4技能測定に対応した指導やテスト問題の研究」「記述式問題の研究」については、進学率別に取り組み度合いに違いが大きい。進学率「81%以上」の高校では、「思考力・判断力・表現力を測るテスト問題の研究」に約半数が、また「記述式問題の研究」にも4分の1が既に取り組んでいる。

図5-4 大学入試改革への対応状況(四年制大学進学率別〔公立普通科〕) 高校 校長



注1) 四年制大学進学率は、「昨年度の進路別の人数割合(現役生のみ)」に対する校長の回答に基づく。
 注2) サンプル数は、四年制大学進学率が81%以上: 129名、61~80%: 237名、31~60%: 216名、30%以下: 179名。
 注3) 選択肢は、「力を入れて取り組んでいる」「取り組んでいる」「今後取り組む予定」「取り組んでおらず、予定もない・決まっていない」の4択。